

平成30年度 前期 学校評価実施報告書

学校名（京都市立西京極中学校）

教育目標

校は「自立と貢献」

学校教育目標「明るく、正しく、たくましく」

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月17日（水）	学校運営協議会 理事

（1）「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

校は「自立と貢献」に向け、自ら学ぶ生徒を育てる。

具体的な取組

- 年間2回の「研究授業週間」を設け、日々の授業改善のきっかけとする。
- 朝読書や教科指導、他の領域において、語彙力、読解力、表現力の向上を目指す。
- 各授業において、目標を明確にするとともに、振り返りをおこなう。
- 少人数グループ活動等においても、主体的、対話的で深い学びの機会を工夫する。
- 週末課題の取組を通し、土日の家庭学習習慣を確立させ、基礎基本から教科横断型の活用的な課題まで取り組む機会を与える。また、家庭学習が定着しにくい生徒の補充学習（週1回程度）の充実を図る。
- 連絡ファイルの取組を通し、スケジュール管理能力を上げるとともに、課題、持ち物、提出物を確実にこなす力をつけることで自己肯定感につなげる。
- 小中の授業交流をはかり、9か年を見通した学力向上を図る。
- 「つながる」楽しさを感じ、「自立と貢献」に向けた学びの時間を充実させるため、カリキュラムマネジメントを進める。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・授業を通して学習の基本的な知識が身についたか
- ・家庭学習の習慣が身についてきたか
- ・読書に親しむ習慣が身についてきたか

中間評価

各種指標結果

- ・3つの指標について、どの項目も成果が見られる。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・週末課題、連絡ファイル、ミニ学習会、朝読書などを3年間続けた学年の全国調査の分析において、複数の項目でポイントが改善している。

分析を踏まえた取組の改善

- ・過去に研究テーマとしていた「学び合い」についても、全教科で増やしていきたいと考えて

	<p>いる。また、ホワイトボードやバインダー等も購入し、学習環境をさらに改善し整えていきたい。</p> <p>・「わかる楽しさ」「活かす楽しさ」「つながる楽しさ」を感じられる授業を提供するため、研修や取組を継続したい。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して学習の基本的な知識が身についたか ・家庭学習の習慣が身についてきたか ・読書に親しむ習慣が身についてきたか
学校 関係 者評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートや全国調査の結果が昨年に比べてポイントが改善していることは、評価できる。先生方の努力の成果だと思うが、これからも努力を続けてほしい。 ・学習環境は大切なので、金銭的ことをクリアして、必要ならホワイトボードやバインダー等を、早急に購入してほしい。 ・スマホやゲームの時間が多いと感じる。いろいろな場面で啓発を繰り返ししてほしい。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>特別の教科道徳での道徳教育と各教科での道徳教育との連携により、道徳的価値を深める指導の充実</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科指導の中での道徳教育と道徳の時間の関連を深め、学校全体として道徳教育が活性化するよう年間指導計画を立てる。 ○中学校ブロックの「育てたい児童・生徒像」から、各校が共通の重点内容項目を設定できるよう、道徳推進教師等が定期的に情報交流するとともに、小中合同夏季合同研修会で各校の取組状況を中間報告する。その際、中学校ブロック共有の重点内容項目についての指導に焦点を当て、小中合同で教材開発についての検証を行う。 ○学級活動や生徒集会、文化祭や体育祭などにおいて、一人一人の生徒が道徳的実践力を育成する場となることをねらいとして企画運営する。 ○取組を推進することで、「折り合いをつける力」を育てる。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動・行事などを通して、自分自身の心の成長が見られたか ・クラスや学年など、学校内の様々な集団で人権を大切にする雰囲気が高まってきたか
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の評価をするにあたって、生徒に振り返りのワークシートを記入させたことで、生徒は客観的に自分を見ることができ、心の成長につながった。また、教員も同様に、生徒の文面や聞き取りなどを行うことにより、成長を感じる機会となった。 ・学年目標や道徳の重点目標を共通理解することにより、学級活動や体育祭、文化祭などを通して、生徒一人一人を大切にする場面が多く見られた。
自己	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に向けての取組として行った評価において、教員の指導力向上が見られた。副

評価	<p>教材を利用することで、読み物教材に対する指導の工夫が見られた。研修会や学年会を通して、道徳授業での取り組み方や生徒の反応などを共通理解する機会が増えたことが成果として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月での保護者への道徳評価の提示では、保護者から一定の理解を得られ、生徒の心の成長を伝える良い機会となった。 ・保護者の“道徳の評価”に対する認識にバラつきがあることから、保護者への説明が必要だと感じた。今後、どのように説明する機会をもつのかが課題である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業での指導の工夫などを発表する場を設けることにより、学校全体の指導力の向上を図る。また、生徒の心の成長を学年で共通理解することで、生徒一人一人の成長を学年の教員で育てる環境を作る。 ・道徳の評価を保護者に提示する際に、どの教員も説明できるよう、研修会などで共通理解を図る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動・行事などを通して、自分自身の心の成長が見られたか ・クラスや学年など、学校内の様々な集団で人権を大切にする雰囲気が高まってきたか
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭などで生徒の一生懸命の姿を見た。その姿を認めて自信をつけさせて欲しい。そのことが生徒一人一人の自尊感情へつながればと思う。 ・こどもは家族の中で育つもの、親とこどもとの会話が増えればと思う。 ・しなやかな道徳の研究発表会に行きたいと思う。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	生涯にわたって自らの健康をコントロールし、改善していく力の育成
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健康診断、健康観察、保健室情報等を根拠とした健康教育の推進。 ○社会的資源を活用したり、生徒会活動とリンクさせたりした健康教育の推進。 ○キャリア教育、道徳、人権教育、ライフスキル教育、安全教育、情報教育等と関連付けた健康教育の推進。 ○広報活動を通じて、保護者や地域と連携した健康教育の推進。 ○外部人材を活用した、健康委教育・安全教育・防災教育の推進。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、時間、掃除など規律正しい学校生活を心がけるようになってきたか ・健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がけるようになってきたか

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつについては、好感のもてるあいさつができるようになってきた生徒がふえている。 ・規律正しい生活習慣については、学校評価アンケートのポイントは上がっている。
	<p>自 分析 (成果と課題)</p>

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 防煙教室、薬物乱用防止教室、性教育など、各種の健康教育を計画通りに実施することができた。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 年度当初の予定通り、各種の健康教育を計画通りに実施していく。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ、時間、掃除など規律正しい学校生活を心がけるようになってきたか 健康なからだづくりのため、規則正しい生活習慣を心がけるようになってきたか
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体として落ち着いていると感じている。 文化部も運動部も、一生懸命の姿が見られる。 薬物の使用を防ぐ一つの方法として、子どもに高額のお金を持たせない、ということも考えていこう。 子どもをいつも大切している気持ちを、常に伝えるようにしている。
学校関係者評価	<h4>(4) 学校独自の取組</h4> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点目標</div> <ul style="list-style-type: none"> ●小中一貫教育 <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の児童・生徒が自分の成長に自信を持ち、他者の成長を認め、仲間とともに学び、競い合い、成長し合うことで、生涯にわたって学び続ける意欲を培う。 ○地域や社会の一員として貢献しようとする姿勢を育てる。 ●秩序ある学校生活を送る中で、次のような子ども像を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ○自他を大切にする児童・生徒 ○楽しく学び、じっくり考え、しっかり行動できる児童・生徒 ○困難に対し、粘り強く立ち向かおうとする児童・生徒 ○社会に目を向け、人の役に立とうとする児童・生徒 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ○月1回の小中合同定例会（校長会・教頭会・教務主任会・研究主任会）を持ち、それぞれの立場から9年間を見通した取組についての検討を進める。 ○夏季休業中に小中合同研修会を持ち、西京極中学校区小中一貫教育の在り方について検討する。 ○「中一ギャップ」の解消に向け、体験授業や生徒会本部役員による中学校説明会を行う。 ○小学校児童会と中学校生徒会の協働の取組を進める。 ○相互の授業を参観し、9年間のスパンでの授業改善に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつや地域の行事への参加など、地域の人と関わるようになってきたか

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつについては、成果を上げているが、地域行事への関りについては、ポイントを下げている。 	
自	分析（成果と課題）

己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同研修会で、さらに踏み込んだ成果を取組に生かしていくことを確認した。児童会・生徒会で共通のテーマを設定し、取組を進めることを一步踏み出している。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の夏休みのリーダー講習会で、児童会と生徒会が協力して何ができるかを検討し、準備していく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃のあいさつや地域の行事への参加など、地域の人と関わるようになってきたか
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へは、どうしても管理職中心の参加になっているが、餅つき大会などの中学生の姿を見ると、頼もしく感じている。中学生もぜひ積極的に参加してほしい。 ・桂川や天神川の清掃活動には部活動単位で参加しているが、今年は公式戦と重なった部活動が多く、参加が少なかった。 ・各学区の夏祭りでは、中学生の姿が多くみられたが、子どもらしい姿が多くみられた。